九州建設情報社

福岡第一高等学校の生徒に路面標示施工体験
職人の「技」を体験する学校キャラバンを実施　（九州建専連など）

会員社による路面標示の実演施工

建設技術者の高齢化、担い手の確保・育成に向けて、建設業界と行政が協力し建設業の役割や魅力を伝えるプログラム「学校キャラバン（出前授業）」を２２日、福岡第一高等学校工業科（福岡市南区）の生徒を対象に行った。学校キャラバンは九州地方整備局と建設産業専門団体九州地区連合会が、平成２９年度より建設業の社会的な役割、ものづくりの素晴らしさを体験できるプログラムとして高等学校を訪問し、生徒、保護者、教員に魅力を発信するもの。

挨拶に立つ星子支部長

今年度２回目となる学校キャラバンは、福岡第一高等学校工業科１～３年生までの約３０人が参加。建設業界からは（一社）全国道路標識・標示業九州協会福岡県支部が参画し、日本ディックライト（株）（田中賢哉社長）と双葉工業（株）（星子洋満社長））の２社が協力企業として実演施工を指導。技術者が機械を使い、前進・左折の矢印を描くライン作業などを段取り良く作業を進めた。同校で学校キャラバンが開催されたのは２度目となる。

開催にあたって（一社）全国道路標識・標示業九州協会　星子洋満福岡県支部長と九州地整の建政部　西渉建設産業調整官があいさつ。星子支部長は「標識や表示は日常に溶け込み、当たりまえすぎて意識したことがないと思います。ですが、これらの案内が道路から消えると、規制がなくなり事故が多発することは間違いない。そうならないために、道路に秩序を作り、安心・安全に取り組むのが私たちの業界です。地域に根差した仕事なので、仕事が終わると「きれいになりました、ありがとう」と感謝されることも多く、やり

身を乗り出して細かな部分を確認する生徒

がいがある仕事。ぜひ就職するときの選択肢として考えてほしい」と伝えた。続けて西調整官は「これからの建設業には、若いエネルギーが必要です。それには、まず、業界の仕事を知ってもらうことが大事。今日の体験を通じてものづくりの楽しさ、ダイナミックさを感じてほしい。」と呼びかけた。

プログラムの前半は協会の活動映像を紹介。その後、事務局長の鎌田洋一氏が協会の活動や取り組みを説明。九州各県に会員社があり国や県、市町村の仕事をしている優秀な企業と丁寧に伝えた。後半はグランドで路面標示の作図、施工作業の体験を行った。

グランドでライン引きを体験した生徒は「卒業後は大学進学を考えていますが、その後は業界に入りたいと思っています。だからこそ、機会があればどんなことでも経験して、どの道に進むか選択の幅を広げたい」と強く語った。施工作業が終わった後は、質疑応答タイム。「ラインの幅はどの県も同じなのか」「給料はいくらなのか」「仕事はつねにあるのか」「一度に引けるラインは何メートルなのか」など、生徒からは具体的な質問が多く出て、業務に対する関心の高さがうかがえた。

貴重な体験と語る江口さん

同校の乾弘満教諭は、「建築土木の仕事は目に触れる機会がないので、学校で小規模の実習を行っても、社会でどう役立つのかイメージがつきにくいのが現状です。当たり前だと思っている路面標示など、デモンストレーションで見せていただくこと、イメージがつかめる。これが就職の窓口につながり、業界へ関心を抱いてくれることを期待しています」と語った。